

ことばのうみ

宮城県図書館だより

MIYAGI PREFECTURAL LIBRARY No.

11

2002. 7

むらさきの雲路にさそふ琴のねに
憂き世をはらふ峰の松風 寂連法師

紫山の里山に、一歩足を踏み入ると、何ともいわれないすがすがしい気持ちになります。ときには日常の喧騒から離れ、身近な里山を散策し、大地のぬくもり、草木の息吹にふれ、明日に向かってリフレッシュしてはいかがでしょうか。(宮城県図書館 遊歩道)



▲ 図書館アートシリーズ
ジョセフ・コースス(アメリカ)作
地形広場壁面アート



特集 宮城県図書館協議会のしくみ

本との出会い

伊達宗弘

私をはじめ、本といえるものに出会ったのは小学五年の頃、姉から井上靖の『あすなろ物語』を贈られたのがはじまりと記憶している。この本との出会いは、繊細多感な少年時代の私には、新鮮な衝撃であった。何度も何度も読み返しながら、いつの間にか作中の主人公になっていった自分が思い出される。中学に入ったときは、母からお祝いに『大地』、姉からは『風と共に去りぬ』を贈られた。大きく世界が広がっていった記憶がある。夢中で本を読んだ。大学に入ってから、世界文学全集を読みあさった。ゲーテやヘルマンヘッセの詩を暗唱し、一人で得意になっていたこともある。

大学を出て就職したとき最初に買ったのは当時発売された百科事典二十六巻である。心が豊かになった。三十年以上たったいまも現役である。この四月から図書館勤務となった。初めての本、懐かしい本に出会う都度、心が躍る。なんて、本は素晴らしいものだろう。多くの皆様に本との出会いを通して、心を豊かに耕していただく一助になればと考える今日このころである。

(だて・むねひろ 宮城県図書館長)